西日本新聞　2005年(平成17年)7月30日　土

官民連携し不登校減少を

NPO小中教諭に講義

実態、解決策アドバイス

大野城市

民間の視点を生かした公立校教諭向けの不登校児支援の講座が大野城市で始まった。指導するのは同市の特定非営利活動法人（NPO法人）。十年以上のカウンセリング経験をもとに、学校では把握しにくい不登校の実態や解決策をアドバイスする。主催の「四市一町同和教育研究連絡協議会」は「官民連携の取り組みで不登校児減につなげたい」としている。

筑紫地区の小中学生数は約四万人。同協議会によると、このうち年間三十日以上欠席した不登校児は二〇〇四年度に計四百二十一人いた。数字に現れない不登校傾向の子どもも多いことから、新しい視点で問題解決につなげようと、NPOに講義を依頼した。

講師はNPO「地球家族エコロジー協会」のメンバー。理事長の仲光雅紀さん(四三)は教材販売会社の経営を経て、一九九五年に不登校のカウンセリングを行う任意団体を設立。現在は筑紫地区を中心に中学生から四十歳まで三十六人に社会復帰を指導している。

二十六日の第一回講義には同市や春日市など四市一町の小中学校教諭約六十人が参加。仲光さんは「不登校児を病院に連れていこうとする教師や親もいるが、不登校は病気ではなく嗜癖の一つ」と解説。「治療対象としてみるのではなく、問題の原因をじっくり探ることが大切」と語った。

講座は十月までに計十二時間開催。不登校のメカニズムの把握やカウンセリングの実践などを通して学ぶ。同協議会の安永光徳事務局長は「一人でも不登校児を減らすために、現場で活用できるノウハウを学んでほしい」と話している。

10/29 読

不登校　ひきこもり

八代ネットワークが支援

きょう専門家が講演会

不登校やひきこもりについての専門家による講演会が29日午後一時半から、八代市大手町の八代教育会館で開かれる。7月に発足した「八代不登校・ひきこもりサポートネットワーク」（中島昭二事務局長）による支援事業の一環。

ネットワークは、家庭と学校、不登校児の親の会、非営利組織（NPO）などの連携を強化し、地域挙げての支援体制を整えることを目的に設立。今回の講演会はネットワークとして最初の取り組み。

講演するのは、福岡県大野城市のカウンセラー中光雅紀さん。中光さんは同市に「NPO法人地球家族エコロジー協会」を設立し、児童から成人まで幅広く相談にあたっている。今回は「家族の蘇生力～親だからできること」と題し、子どもの自立における親子のきずなの大切さについて実例を交えて語る。参加無料。

ネットワークでは今回の講演会を手始めに、11月11日から来年2月まで計4回、八代地域の不登校への対応に悩む教職員を対象とした講座を開催。また、11月12日午前10時から八代市興国町の秀岳館高校で「不登校・高校中退生のための進路相談会」を開く。こちらは一般の利用を呼びかけている。問い合わせは市人権啓発課（0965・32・7059）へ。

来月12日　進路相談会